

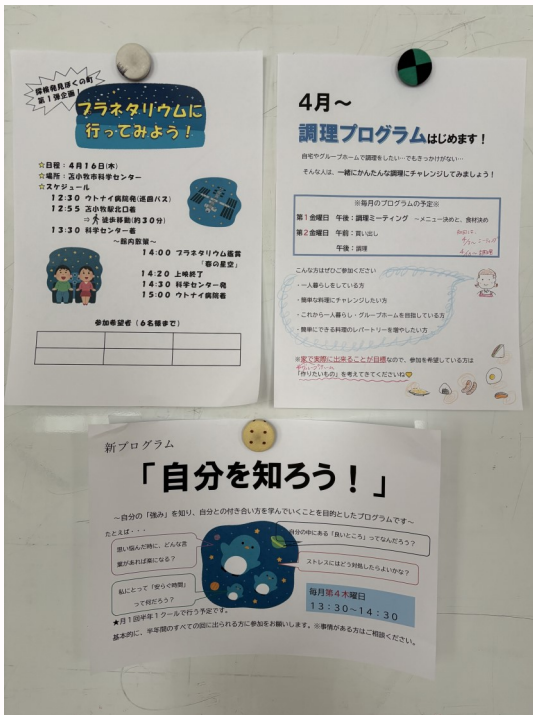
移転2年 デイケア新プログラム始動

ウトナイ病院へ移転して2年。デイケアは地域での暮らしを支える新プログラムを2026年4月から開始します。

デイケアが柳町診療所からウトナイ病院に移転して2年が経過しました。利用されている方の中には、場所の変更により移動距離や設備の違いで戸惑ってしまった方も多かったと思います。ですが、少しずつこの環境にも慣れて自分なりの過ごし方のスタイルができてつつある様子も伺え、利用されている方の遅しさを感じる日々です。

デイケアの役割としては、まずは安定して通えるということが大前提になります。そのためには、個別の関わりに加えて幅広い年齢層に応じた各種プログラムが必要です。デイケアでは利用されている方のニーズに合わせて選択できるよう、生活上の困りごとの相談やコミュニケーション技術のスキルアップ、心身の健康増進、就労支援事業所見学、創作活動や趣味活動...等、様々な目的のプログラムを準備しています。その成果として、デイケア利用者の入院割合は2割以下で、多くの方が在宅生活の維持につながっています。

そこで、次の展開として、より充実した地域生活が送れるよう2026年4月からデイケアプログラムを刷新します。具体的には、自分が住んでいる地域で実際に使えそうな公共施設やそれを使うための交通手段を体験しながら学んだり、市内で使える公共サービスを知ること、専門職や外部講師による病気～生活に関する講座や自分を知るためのミーティング、調理訓練...



プログラム紹介

最終的には利用している方が主体的に生活し、地域資源を使えるようになることを目指します。お金をかけずにできることの情報共有をしたり、お金をかけてでもやりたいことであれば、どのようにお金を貯めていくかを計画していくこともデイケアと一緒に取り組んでいけることです。やりたいことのために知識や情報を知り、どのように実現させるか計画し実行に移していく...難しそうに思うかもしれませんが、一緒に練習していきましょう！

地域生活の経験値が増えると、やりたいことも見つけられる可能性が広がります。何かに興味を持ち、それを叶えるために自分で行動に移せることはとても素晴らしいことです。こうなりたいという自分を叶えるためにデイケアを利用してみるのはいかがでしょうか。在宅生活で自宅にこもりがちの方、やりたいことがなかなか見つけられない方、現在入院中で退院を目指している方...は一度主治医の先生にご相談ください。



デイケアホール



精神科医の 育児日記

精神科医 川並 剛

第13回 「人のふり見てなんとやら」

みなさん、もう2年目となりましたが今回も目を通していただきありがとうございます。今回も前回と似た内容です。さて、つい最近、実家から自分の小さい頃のビデオカメラの記録がDVDに保存されたとの連絡が入り、それが届きました。子どもも多少興味を持っていたようで、家族みんなで見てみました。そこにはなんと…ふにゃふにゃくねくねしながら歩いている自分、年中年長の時の運動会で座ったとたん砂遊びをし始めている自分、駆け足入場では時々歩いたりずーっと横を見ている（母か祖父母を見ていた？）自分、列が詰まって前後の子に挟まれて助けを求めているような困った顔できょろきょろしている自分…とまあ、子どもに対して偉そうには言えない過去の（今も？）自分がおりまして、幼少期にしっかりものであった妻からは悲鳴が上がるのでした。しかし、自分もその頃のそうした事実を全く覚えていないし、出来る子と同じようにしていたとしか記憶しておらず…。とりあえず、恥ずかしい記録ではありましたが、子どもができていないところをみてもそこまで心配しなくてもいいんじゃないかという材料にはなったのでした。

Dr. 望月の日々雑感

なぜ人にだけ老いとは何か

朝日新聞3月25日付・高橋源一郎「歩きながら、考える」は、生物学者の「ヒト以外の生物には老化期間が存在しない」という指摘から旅を始める。多くの生物は生殖可能期間を終えると死へ向かうのに対し、ヒトには長い“老い”の時間がある。この特異性を説明する有力な仮説が「おばあちゃん仮説」だ。母親の産後、祖母が子育てを支える集団は長期的に子孫を増やしやすく、その結果として長寿が選択されてきたという。

しかし記事が照らすのは、生物学的な老いだけではない。ヒトは社会的にも“シニア”として老いを生き、その存在がむしろ人類の寿命を押し広げてきたのではないかという視点が示される。では現代社会で、シニアに本当に役割は与えられているのだろうか。生物学では答えの出ない問いが、私たちの前に残されている。シニアの役割とは何か。社会はその力をどう生かすのか。老いをめぐる思索は、進化の物語であると同時に、これからの社会をどう形づくるかという私たち自身の未来の問いでもある。



精神科医 田中 尚朗

第36回 ウースター線の歴史

みなさんこんにちは。公共交通は時刻表改正の季節ですね。先日通勤中に、「ウトナイ病院前」という真新しい停留所を発見しました。4月以降に道南バスが止まるようで、病院への交通が便利になりそうです。

さて今回は、前回までの「フィッチバーグ線」を離れ、「ウースター線」の歴史を紹介したいと思います。この路線は1833年開通の「ボストン・アンド・ウースター鉄道」に起源を持ちます。1825年、ニューヨークの北方約220 kmの州都オールバニと五大湖を結ぶエリー運河が開通し、ハドソン川の水運との連結に成功。これに伴い、貿易港としてのニューヨークの地位が高まり、ボストンの価値は低下しつつありました。そこでボストンとオールバニを結ぶ機運が高まりましたが、運河の建設は地形上不可能でした。代わりに鉄道が敷設されることになり、1832年、ボストン側から工事が開始されます。西への延伸を繰り返し、1835年にはマサチューセッツ中部の大都市ウースターに到達、これが「ボストン・アンド・ウースター鉄道」です。一方、東のニューヨーク側からは、1835年に「ハドソン・アンド・ボストン鉄道」の建設が始まり、ハドソン川からマサチューセッツ州境までの路線が1838年に開通。州境からウースターまでの空白区でも、1837年に「ウエスタン鉄道」の建設が始まります。州境からマサチューセッツ西部の大都市スプリングフィールドまでは1839年、残りの区間は1841年に完成。3つの鉄道を合わせて、ボストンとオールバニを結ぶ323 kmの「ボストン・アンド・オールバニ鉄道」がついに全通しました。これによりボストン、ニューヨーク、米国中西部がオールバニをハブとして繋がり、のちに「ニューヨーク・セントラル鉄道」として一大交通ネットワークが形成されていくのです。

次回からは、このウースター線の駅を訪れていきます。



本州では桜の便りがちらほら聞こえてきます。

桜は日本人には特別な花ですが、インバウンドの方たちにとっても桜の時期は特別なようです。テレビでも、桜をバックにスマホで写メを撮っている姿が散見されます。

ただ、古くは花と言えば梅だったようで、奈良時代に書かれた万葉集では梅を詠んだ歌が約118首に対して桜は44首でした。平安時代になり、905年に編集が始まった古今和歌集では梅が18首、桜が70首です。

実は私は梅派でして、昔東京にいたころ、まだ寒い夜にバスを待っている時、静まりかえった空気の中ほのかに梅の香りがしてきて、あ～春だなと思ったものでした。

個人的な話になりますが、東京の小児病院に勤務していた時、長く入院していた肺疾患の児童がいました。私の受け持ちではありませんでしたが、母子入院ではなかったため、たまに話したりしていました。私が北海道に来て何年か経った春、小児病院のナースから、彼が亡くなったと半泣きで電話が来ました。その病院は敷地内に梅の木があり、彼が梅を見たいと言い、看護師さんのおぶって梅を見に行き、病院に戻ったら亡くなっていたそうです。明るく、誰からも愛される子でした。春になると毎年思い出されます。今はお空から梅を見てるかな。

(H.Y)

青い空心くるおひ春ひら

★あい

落ち着いた人になりたい今想う

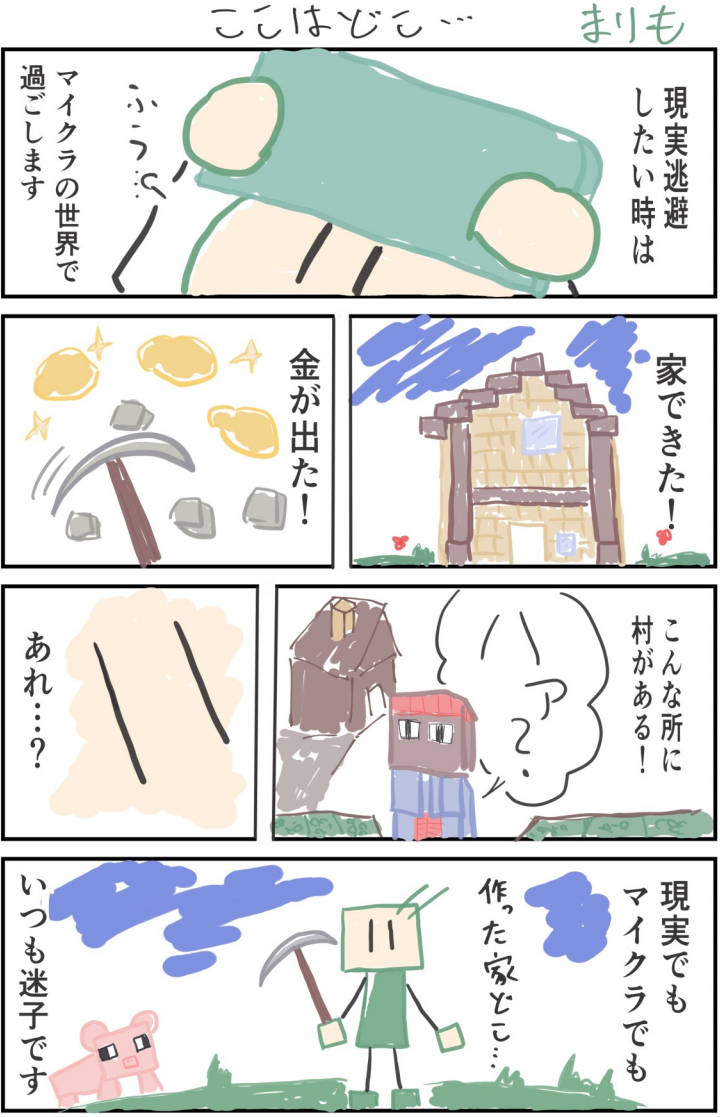
★愛佳

お知らせ

◆ 電話についてのお願い ◆

代表番号に電話が集中することを防ぐため、下記のように使い分けていただけますようご協力をお願い致します。

- ①外来や入院の新患受診相談 ⇒ 地域連携室直通 0144(84)5658
- ②受診に関することや会計・手続等のお問い合わせ ⇒ 代表電話 0144(84)5561
- ③入院中の方のご相談・ご連絡 ⇒ リハビリテーション部直通 0144(84)1017
- ④デイケア通所中の方 ⇒ デイケア直通 0144(84)5774



病む人と出会い
病む人を支え
病む人に学ぶ

発行
社会医療法人こびし広報委員会
苫小牧市ウトナイ南2丁目1-8
TEL:0144-84-5561
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



緑豆CAKE

〈後記〉
御土産にいただいた中国伝統のお菓子です。中国語は何となくふわっと読めてしまうけれど、緑豆煎餅?緑豆CAKE?食べるまで味がわかりません。結果は来月号の編集後記で。お楽しみに。

(K.S)

写真はご本人の子承を得てから掲載しています。
本誌は道産間伐材と道産の広葉樹を使用しています。